

目的

高齢者が自らの活動をよりよく管理できるようにすることは、高齢者のウェルビーイングを向上させる効果があり、ヨーロッパと日本における「アクティブで健康的な加齢」を社会技術的にサポートすることで、高齢者の生活の質を向上させることができます。人口動態の変化は、社会経済的な課題を伴い、医療・社会保障制度の負担を増大させます。健康、ウェルビーイング、社会とのつながりを高めるためのコーチングは、個人の生活の質を向上させることで、高齢化社会の社会経済に大きな影響を与えます。

e-VITAプロジェクトは、高齢者が選択した機器や技術を用いて、実生活や異文化に適應した新しいバーチャルコーチングシステムの認知度や利用度に影響を与えます。これらの社会技術の利用は、高齢期における疾病、虚弱、依存、うつ病の予防に影響を与えることが期待されます。

e-VITAは、活動的で健康的な加齢産業のための市場を含む社会技術革新の観点からプロジェクトが活用されるため、欧州や日本の関連産業、中小企業、NGOに強い社会経済的影響を与えます。



「私たちの目標は、高齢者が自立して活動できるようにし、日々の活動を管理し、幸福感を高めることです」

連絡先

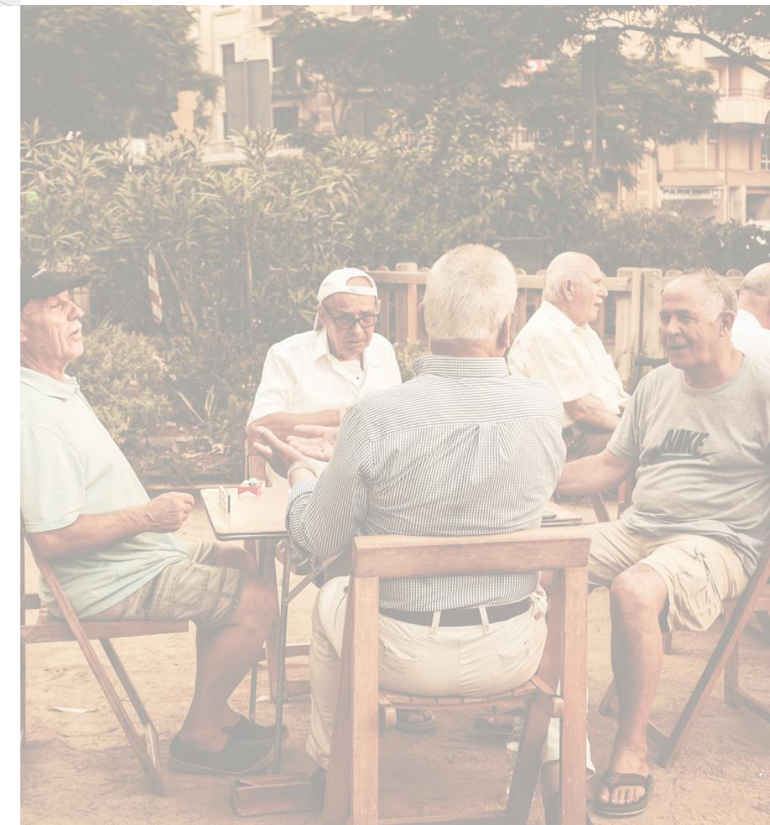
ライナー・ヴィーヒング博士
University of Siegen (ジーゲン大学)
rainer.wieching@uni-siegen.de

小川敏美 (おがわとしみ) さん
東北大学
toshimi.ogawa.e6@tohoku.ac.jp

 <https://www.e-vita.coach/>



本プロジェクトは、欧州連合 (EU) からの資金援助を受けています。
H2020 Programme under grant agreement n° 101016453.
日本のコンソーシアムは以下の資金援助を受けています。
日本の総務省 (MIC)。



スマートリビング技術とセンサー

また、e-VITAのバーチャルコーチの形状やモダリティは、ユーザーの好みや個人のニーズに応じて、実践に基づいた選択プロセスでカスタマイズすることができます。

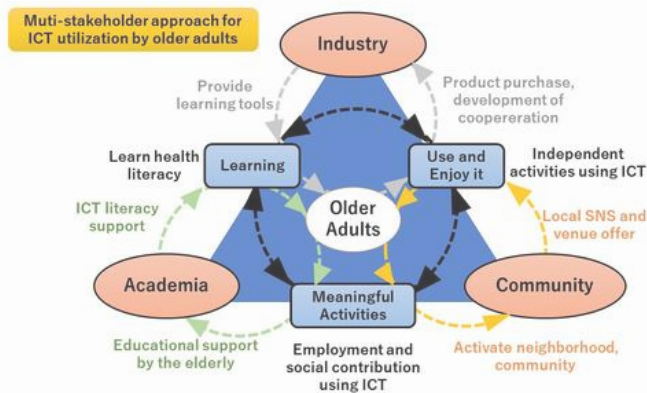


高齢者のニーズに基づいたマルチステークホルダーアプローチ

e-VITAのパートナーは、提案されたソリューションが高齢者の日常生活における真のニーズと実践に応えるものである場合にのみ、エンドユーザーの受け入れが保証されることを知っています。そのため、e-VITAの研究開発は、ターゲットグループ（ヨーロッパと日本のコミュニティに住む高齢者）のニーズと日常生活の実践からスタートします。

最終的なソリューションが良いユーザー体験とニーズの充足を提供できるように、技術から直接ではなく、技術からのアプローチを採用しました。

e-VITAのパートナーが採用する手法は、イタリア、フランス、ドイツ、日本の様々なエンドユーザーと、彼らを取り巻くインフォーマルな介護者や地域の社会サービスなどのステークホルダーが参加する、実生活の場での参加型かつ価値に基づくデザインアプローチに基づいています。このように、e-VITAの重要な点は、ヨーロッパと日本で新しい社会技術的なアプローチ（および関連する政策）を確立し、地域に住む高齢者とその周囲の関係者の実際の生活環境と実践の中でそれらを実施することです。



国際協力

e-Vitaコンソーシアムは、革新的な企業、研究機関、大学、保健分野の当局、公共および民間の医療サービス提供者、市民社会組織、保健機関のパートナーシップで構成されています。このコンソーシアムは、すべてのパートナーが国際的かつ分野横断的に表現し、参加できるように構築されています。世界の2つの地域、ヨーロッパと日本から21名のパートナーが参加しています。これらのパートナーが参加して、e-Vitaプラットフォームを開発し、4カ国で展開し、EU全域に普及させていきます。e-VITAプロジェクトは、欧州と日本の長年の経験と専門知識を融合する機会であり、高齢化に関する国際的な課題はe-VITAプラットフォームによって容易に適応することができます。

